



TITLE:

刊行規定・投稿規程（抄）・編集 後記・本号執筆者・裏表紙

AUTHOR(S):

CITATION:

刊行規定・投稿規程（抄）・編集後記・本号執筆者・裏表紙. 京都大学
学生涯教育学・図書館情報学研究 2007, 6: 103-104

ISSUE DATE:

2007-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/44038>

RIGHT:

『京都大学 生涯教育学・図書館情報学研究』

刊行規定・投稿規程（抄）

（生涯教育学講座 紀要編集委員会記）

○刊行規定（2006年5月12日改訂）

- ・趣旨：生涯教育学・図書館情報学・メディア論の各分野の研究・教育の活性化と、内外の研究者および教育関係者との交流ならびに双方の発展を意図し、生涯教育学講座の院生が中心となって、現在の同講座に関わる教官、大学院生およびOB／OGの研究成果を掲載し公表することを目的とする。
- ・掲載原稿の種類：上記の趣旨にのっとり、研究論文、研究ノート、翻訳、研究動向、実践報告、書評（文献資料・図書紹介）、コラムを主として掲載するものである。
- ・執筆資格：本紀要の執筆資格者は、原則として、同講座の教官・非常勤講師（過去の非常勤経験者を含む）、修士・博士課程在籍者、同OB／OG、研修員とする。それ以外の者の執筆については、上記該当者との共同執筆による場合、ないし編集委員会において特別の必要を認めた場合とする。

○投稿規程（2006年5月12日改訂）

- ・原稿のテーマは本紀要の趣旨に沿うものとする。
- ・原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表およびその配布資料の場合はこの限りではない。
- ・原稿は、ワープロ書きで提出するものとする。横書き・A4版。400字詰め原稿換算で60枚（注・文献を含む）を原則として上限とする。
- ・原稿の上記規定には図・表・注・引用文献・参考文献等も含むものとする。（注は文末注とする。）
- ・原稿はプリントアウトした2部（1部は複写で可）を綴じ、所定のボックスに提出届を添えて提出する。添付ファイルのみでの提出は認めない。直接持参しての提出が困難な場合は、適宜担当の編集委員に問い合わせること。なお、提出された原稿は原則として返却しない。
- ・原稿には必ず英文のタイトルをつける。

編集後記

本誌が創刊されて以来、今年は特に多忙な一年であったと思います。といいますのも、今年は「魅力ある大学院教育」イニシアティブに向けた様々なプロジェクトが正式に開始されたからです。教育学研究科の大学院生が主体的にこれらのプロジェクトに関わり、2つ以上のプロジェクトを掛け持ちしている院生も少なくないでしょう。生涯教育学講座も例外ではなく、すでに4つのプロジェクトが同時進行しています。2つの大学院生主体の研究開発コロキウム、「フィールドを立ち上げる」プロジェクト、そして北京師範大学との学術交流協定のプロジェクトです。

私自身も上記のうち3つのプロジェクトに参加させていただきました。まず6月上旬に行われた北京師範大学との学術交流協定締結では、両大学の大学院生がお互い英語で論文を発表し意見を交わすことで交流を深めることができました。同月の下旬、京都府相楽郡南山城村にある旧野殿童仙房小学校の跡地を拠点として野殿童仙房生涯学習推進委員会を発足する調印式では、院生代表としてお話をする機会が与えられ、多くの方から共感をいただきました。そして最も責任の重いプロジェクトである研究開発コロキウムでは、課題遂行のためにフィールドワークを継続的にを行い、また夏休みにはグループのメンバーと共に韓国の生涯学習施設を訪問し多くのことを学び感じてくることができました。このような活動はむろん私個人に限った話ではありません。当講座の院生、さらには当研究科の院生みなさんに通用するのだと思います。プロジェクトの参加で例年の何倍も忙しくなったものの、それ以上にこの時にしかできない貴重で多彩な経験ができたことへの感謝の気持ちが大きいのです。

その他に今年は韓国で国際図書館連盟の大会である IFLA ソウル大会が行われ、その関係者の方（元 IFLA 理事）の来日に合わせ当講座の院生と討論会を持ちました。また北京師範大学教育学院の院長と副院長の来日の際は、北京シンポジウムのことや今後の交流の展望などについて気軽に意見を交換しました。従来の生涯教育学専攻、図書館情報学専攻に加えてメディア論の専攻が生涯教育学講座のなかに本格参入を果たしたことも特に記しておくべき事柄でしょう。早速今号にメディア論専攻の院生から投稿をいただきましたし、佐藤先生には巻頭を飾っていただくこともできました。

以上のように当講座はダイナミックに動き変化しています。この動きと変化により、今後本誌は益々豊かで幅広い研究内容を掲載できることを心からお祈りしています。最後に、執筆してくださった方々に感謝の気持ちを申し上げます。またともに編集作業をしてくれた編集委員の赤上さん、そして編集作業を統括してくれた小林さんにも「ありがとう」の言葉を伝えます。

（2007年3月 編集委員会事務局・金智鉉 記）

本号執筆者（執筆順）

佐藤 卓己（本学大学院教育学研究科助教授）
薬師院 はるみ（金城学院大学講師）
吉田 正純（大谷大学非常勤講師）
安川 由貴子（本学大学院教育学研究科博士後期課程）
赤上 裕幸（本学大学院教育学研究科博士前期課程）
生津 知子（本学大学院教育学研究科博士後期課程）
マリアン・コーレン（オランダ公共図書館協会研究・国際部長／IFLA 理事：2001-05年）
村上 加代子（本学大学院教育学研究科事務補佐員）
川崎 良孝（本学大学院教育学研究科教授・研究科長）
山口 源治郎（東京学芸大学教授 本学大学院教育学研究科非常勤講師）
高 敏 裕 樹（大阪教育大学講師 本学大学院教育学研究科非常勤講師）

2007年 3月31日 印刷発行

京都大学 生涯教育学・図書館情報学研究紀要

発行者 生涯教育学講座 紀要編集委員会 事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院教育学研究科内

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

(075) 791-6125

Journal of Lifelong Education and Libraries

Vol.6

《CONTENTS》

Introductory Essay

- The Studies of Mass Communication and its Aporia to the Media Education Takumi SATO 1

Articles

- The Roots of "One Ward, One Library" Planning in Nagoya City:
A Historical Study of Library Management Harumi YAKUSHIIN 5
- "Doyoubi" group and it's anti-fascist learning: Toward a Frame analysis
of resistant media in Kyoto during the Second World War Masazumi YOSHIDA 19
- Meaning of a Third Person in the Double Bind:
with "Logical Categories of Learning and Communication" by G. Bateson Yukiko YASUKAWA 31
- Total War System in the Postwar Film Hiroyuki AKAGAMI 43

Translation

- Andragogy, Self-Directed Learning (SDL) Tomoko NAMAZU (tra.) 53

Lecture Records

- Working for a Healthy Society:
Health Information in Public Libraries in the Netherlands Marian KOREN 65
Kayoko MURAKAMI, Yoshitaka KAWASAKI (tra.)
- The Current Status and Problems of Public Libraries in Japan Genjiro YAMAGUCHI 73
- Some Problems with Designated Administrator System:
Discussions at Minoh Public Library Council Hiroki TAKAKUWA 81
- American Public Libraries and Their Purposes of Existence:
History, Current Status, and Problems Yoshitaka KAWASAKI 89

Appendix

- Trends of our section in 2006 99

Department of Lifelong Education and Libraries
Graduate School of Education, Kyoto University, Japan

2007